

病虫害発生予察指導情報

(果樹全般・カメムシ類 No.13)

令和元年度9月13日

鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

予察灯におけるカメムシ類の誘殺数が増加しています。また、一部地域のナシ園においてカメムシ類の飛来が確認されました。カメムシ類の飛来状況は、ほ場間差が大きいため注意が必要です。ほ場の観察を徹底し、カメムシ類がみられる場合は、防除を実施して下さい。

2. 情報の根拠

- (1) 9月上旬現在、予察灯におけるカメムシ類（特にチャバネアオカメムシ）の誘殺数が急増している（表1）。また、集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、北栄町で平年に比べてやや多い（表2）。
- (2) 9月上旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、無袋・殺虫剤無散布、ナシ、‘ゴールド二十世紀’）におけるカメムシ類の被害果実は例年に比べてやや多い。また、園芸試験場の防風樹であるサンゴジュの実へのカメムシ類の飛来は、例年に比べてやや多く推移している。
- (3) 9月上旬現在、収穫されたナシ果実は、一部でカメムシ類による果実被害がみられるものの、ほぼ平年並の被害量である。
- (4) 9月12日発表の気象予報によると、向こう1か月の気象は、カメムシ類の加害活動に好適な条件である。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り、早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う（ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択）。特に、過去の多発年に早期に被害を受けた地域では注意する。
- (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件では薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (3) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用が、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (4) 各樹種の防除薬剤は表3を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。

表1-1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	2	1.6			1	1.0	0	1.5
5月計	185	96.7	574	46.2	152	64.3	111	83.0
6月計	790	206.6	175	123.4	403	132.2	237	120.8
7月計	1,809	1,163.2	540	569.0	476	308.7	149	370.3
8・上	178	363.0	173	305.0	164	177.0	332	239.3
・中	379	368.9	785	326.0	492	183.5	1,689	210.7
・下	406	412.7	603	348.0	345	165.8	403	195.0
9・上	2,107	256.1	2,249	161.0	988	116.8	171	89.6
・中		307.6		162.0		130.2		59.2
・下		232.9		186.0		69.4		45.0

*平年：H21～30

表1-2 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	15	0.8			5	0.6	0	0
5月計	1	14.8	1	7.7	2	2.5	2	2.4
6月計	57	69.2	23	13.0	3	9.6	4	7.4
7月計	598	840.0	301	321.0	73	110.6	32	113.8
8・上	231	505.5	169	298.0	91	128.9	72	105.7
・中	182	530.7	175	334.0	109	189.9	127	104.8
・下	57	342.2	123	213.0	36	110.6	13	43.0
9・上	87	93.6	93	40.0	30	30.9	10	8.6
・中		100.9		40.0		26.6		4.8
・下		62.3		36.0		18.2		1.2

*平年：H21～30

表1-3 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	0	0.1			1	0.0	0	0
5月計	20	4.8	7	5.7	46	9.3	33	13.5
6月計	259	149.3	225	99.7	271	19.0	463	174.3
7月計	175	870.6	186	281.0	267	234.5	237	256
8・上	63	331.3	120	141.0	49	192.6	418	77.8
・中	55	158.9	194	160.0	89	129.3	434	100.8
・下	38	79.9	117	91.0	50	78.6	49	50.7
9・上	142	80.6	96	63.0	78	55.1	7	46.9
・中		86.6		41.0		50.5		27.6
・下		159.8		100.0		42.3		19.9

*平年：H21～30

表2 集合フェロモントラップ*におけるチャバネアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町		北栄町		米子市		南部町	
	本年	平年**	本年	平年**	本年	前年	本年	前年
4月計	0	1.7	10	8.5	1	4.6	2	0.0
5月計	79	22.9	88	51.3	2	13.3	0	0
6月計	284	55.7	163	52.9	0	34.4	0	1.0
7月計	1,112	880.0	178	91.6	0	6	2	0
8・上	66	342.0	6	28.9	0	3.1	0	0
・中	4	95.8	5	14.5	0	2.8	0	0
・下	4	37.2	7	2.8	0	2.8	0	0
9・上	2	8.6	10	1.3	0	0.7	0	0
・中		4.9		1.8		1.3		0
・下		5.4		2.7		6.7		0.5

* …八頭町(水盤式)は水田畦畔、北栄町(水盤式)は果樹園横、米子市(乾式)は別所に設置、南部町(乾式)は会見に設置。米子市及び南部町はH29年度から調査開始(西部農業改良普及所調査)。

** …平年: H21~30

表3 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	IRAC コード**	薬剤の系統
ナシ	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスターク顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内		
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000~ 2,000	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレスロイド系
	シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500	収穫前日まで			
テルスターフロアブル	3,000 ~ 6,000	収穫前日まで	2回以内			
カキ	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスターク顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫3日前まで	3回以内		
	アグロスリン水和剤	1,000 ~2,000	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレスロイド系
	キラップフロアブル	2,000	収穫7日前まで	2回以内	2B	フェニルラザール系
リンゴ	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスターク顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	MR. ジョーカー水和剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	3A	合成ピレスロイド系

*農薬の登録内容は令和元年度9月13日現在

**IRACコードは殺虫剤の作用機構の分類を示す。